

# 校名：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園

所在地：〒921-8105 金沢市平和町 1-1-15

電話番号：076-226-2171

記載日：2016年 5月 18日 記載者：上田ますみ 記載者役職：副園長

## 貴校の校風、おおまかな特色について

### ●園の概要

金沢大学人間社会学域学校教育学類の附属幼稚園として、教育目標「一人一人の幼児が自分なりの力を発揮し、友達とかかわり合いながら生きる力をやしなう」を掲げ、保育を展開している。

### ●園の経営方針

- ・教育課程の実践とその指導法の工夫に努める。
- ・創意ある保育活動の展開に努める。
- ・教育効果を高める環境構成に努める。
- ・温かい人間関係を配慮した保育実践に努める。
- ・保護者との連携、開かれた幼稚園のあり方を模索し、実践に努める。

いつも はだして  
そとで げんき



げんきステージを中心に遊びが  
展開される園庭

## 卒業生の活躍状況について

- ① 追跡調査は特にしていない。
- ② 附属小学校、中学校、高等学校に進学した児童、生徒についてはそれぞれの校種がその情報を持っている。

## 本園勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について

- ① 追跡調査は特にしていない。
- ② 個人的なつながりの範囲で把握している。その情報は異動先の公立学校が持っている。
- ③ 保幼小連携関連事業での発表者として活躍。  
研究主任、生徒指導主事、指導教諭等として活躍。

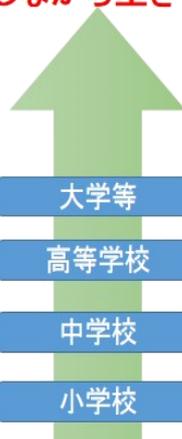
魅力のある、特色のある、

または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて

研究

## 幼児期の学びをつなぐカリキュラムの開発

グローバル社会において自分なりの力を発揮し  
他者と協働しながら生きる基礎を養う



### 幼児期の学びを活かして

- ・幼児期の学びの明確化
- ・幼稚園におけるアクティブ・ラーニング
- ・認知能力、非認知的能力の涵養
- ・汎用的能力の育成
- ・主体的・協同的な姿の育成

## 幼児の自然体験教育プログラムの開発

### 附属幼稚園 自然体験教育プログラム作成

- ・金沢大学角間の里山ゾーンの活用
- ・稲作を取り入れる教育効果の研究
- ・年間を通じて活動する教育効果の研究
- ・幼児の育ちに沿った自然体験活動の在り方

### 金沢大学 角間の里山ゾーン活用 マニュアル作成

- ・石川県内の幼稚園、保育園(所)、認定こども園の利用マニュアル作成、および情報提供

様々な人と連携して

- ・附属幼稚園教員
- ・いしかわ自然学校インストラクター
- ・農業従事者
- ・学生
- ・金沢大学教員
- ・角間の里山メイト

幼児教育における  
里山自然体験活動の意義を明らかにする

## 保護者と共に創る食育

保護者と共に、幼児らが食べることにしかかわる体験を通じて、食べる楽しさを味わい、食べ物を大切にする気持ちや用意してくれる人々への感謝の気持ちが自然に芽生えるように保護者と共に食育に取り組んでいる。

### <本園の食の実態>

- ・給食がなく、昼食時には家庭から持参したお弁当を食べる。そのためみんなで同じ食物を食べる機会がほとんどない。
- ・いろいろな食材を食する機会が少ない幼児も多く、食べず嫌いであると思われる。

### <本園の食育の目標>

- ・食を通じ、健やかなところとからだの発達を促し、子どもの「楽しく食べる力」を豊かに育む。
- ・主体的に食に関わることで、感謝の気持ちや食べる楽しさを味わう。

### 野菜の栽培・収穫

4歳児…ミニトマト、ダイコン

5歳児…ナス、ピーマン、ミニトマト、サツマイモ、ハツカダイコンなど

### 調理・試食活動

5歳児…夏野菜パーティー  
(夏野菜炒め、夏野菜ピザ等)

4歳児・5歳児…味噌汁昼食

5歳児…手作り昼食

### 園庭での収穫物

ヨモギ、グミ、キウイ、カキなど

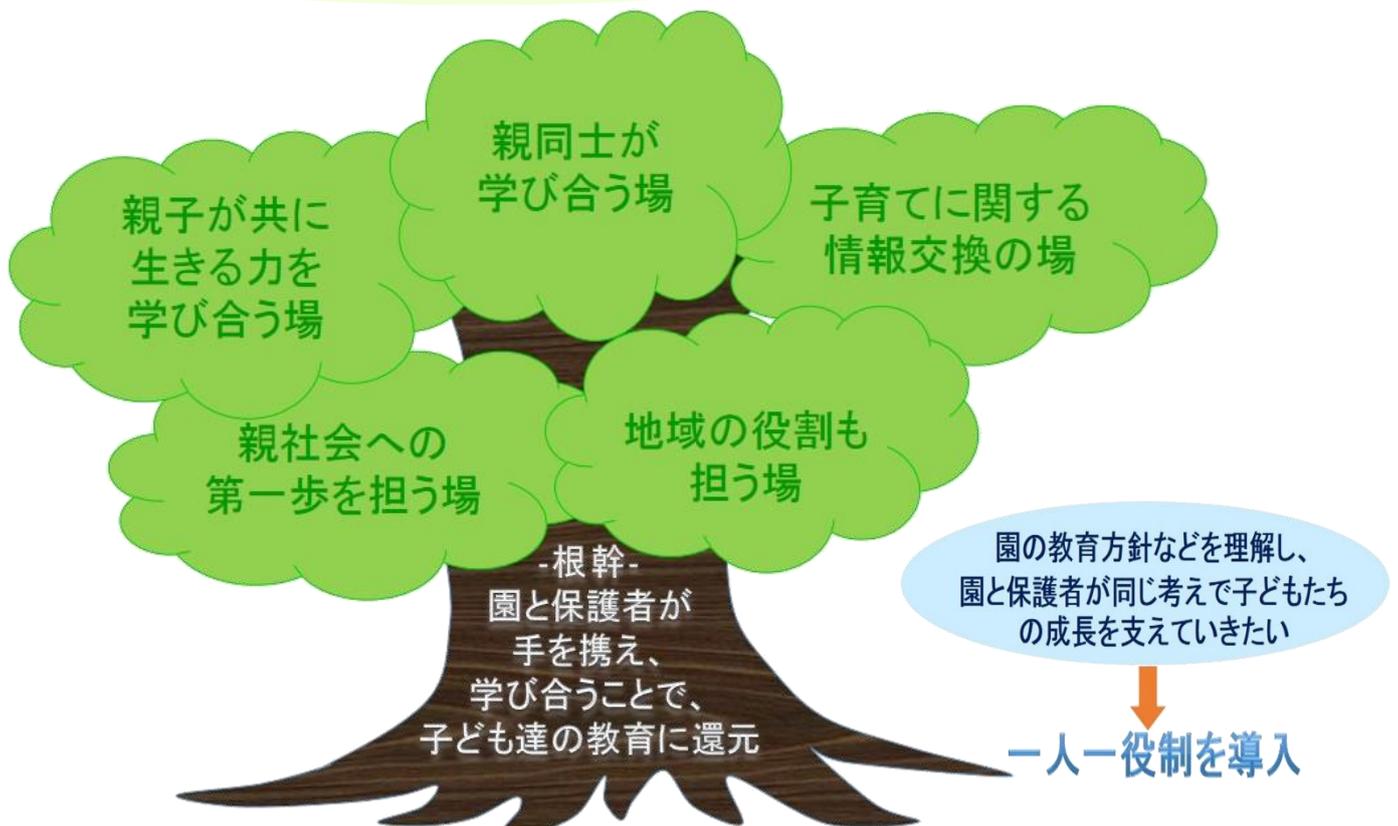
### その他 園の行事など

芋茎の料理(佃煮やきんぴらなど)

焼き芋、お茶会、もちつき

里山自然体験活動(米作りなど)

## 親の在り方を学び合う場としての育友会



## 地域において、現在、本園はどのような存在であると考えているか

- ・石川県には国公立幼稚園が3園しかなく、保育所や近年は子ども園が多くなってきている。そのような状況の中、本園は毎年二回公開研究会を行い、そのうち一回は研究発表（口頭発表，紀要発表）を行っている。このように毎年公開研究会や研究発表会を行っている園は県内においては本園以外ほとんどない。
- ・石川県国公立幼稚園教育研究会（国公立幼稚園3園）の会長，事務局を担っている。
- ・公益社団法人全国幼児教育研究協会石川支部としての役割を担っている。

## 附属学校の存在意義、本園の存在意義について

- ・国公立幼稚園が少ない石川県において、幼稚園教育要領に基づいた幼児期の教育の先進的な研究成果を発信したり，保育を公開し，保育について学び合う場を提供したりする園は本園以外にはほとんどない。子ども子育て新制度が始まり、保育所や子ども園が幼児期の教育について学びたいという思いを強くもっていることがうかがえる。その学びを提供したり、共に学びあったりする役割を本園が担っている。
- ・本学教育学類の教育実習及び、教職大学院の学校実習の場となっている。また、県内の幼稚園教諭養成校の教育実習の場ともなっている。
- ・石川県教育委員会と人事交流を行っており、本園での勤務経験の中で得た学びを公立小学校に再び異動した時に授業や研究に活かしている。
- ・幼稚園，小学校両方の勤務経験を活かし，石川県内で行われている保幼小連携事業等に助言者等として関わることもある。

